

## 部会長挨拶



梶原 稔尚  
(九州大学)

本年4月より、粒子流体プロセス部会長を仰せつかりました。本部会は、化学工学会の中で最大規模の部会です。同時に、歴代の部会長および関係者のご努力により、その活動においても中心的な部会のひとつであると感じており、部会長の任の重さを考えると身の引き締まる思いです。

さて、本部会は熱物質流体工学、ミキシング技術、気泡・液滴・微粒子分散工学、流動層、粉体プロセスの5つの分科会から構成されています。部会制になる以前も含めて、各分科会はそれぞれの学問・技術分野で特徴ある会のコンセプトのもとに活発な活動を展開してきました。部会制に移行した2000年以降は、それぞれの分科会活動のアクティビティを維持・発展させつつ、横断的部会活動を通して、各分科会や個々の部会員の活動にさらなるプラス効果をもたらすと同時に、化学工学へのより大きな貢献を実現することを目指してきたように思います。文章に書けば簡単ですが、享受できるメリットとそれに伴う負担の良好なバランスをとるのは容易ではなく、目標を達成するための方法の模索がなされてきました。

改めて部会憲章を眺めてみると、1) 粒子・流体複雑系全般のフロンティア、2) 持続社会実現のための技術開発の推進、3) 基礎現象理解の増進、4) 広範な関連分野の開拓、5) アジアのアカデミックセンターが謳われています。最近の部会活動を見ても、東日本大震災後の震災復興に関するセミナーの実施や化学工学会誌特集の企画(進行中)、各種の国際会議等の実施、若手・女性育成プロジェクト、部会賞表彰活動など、部会設立時の目標に向かって確実に進捗していると感じます。

今後、さらなる発展を実現するためには、学会本部や部会執行部から部会員への一方向的なお願いだけでなく、双方向での意見交換・議論が不可欠であるのは言うまでもありません。部会員の皆様から、直接あるいは分科会を通じていろいろなご意見・ご提案をお願い致します。

